

2008年10月12日(日)

第4回
桜貝吹奏楽団演奏会

浜離宮朝日ホール(小ホール)



ご挨拶

爽秋の候 日増しに秋も深まり大変過ごしやすい季節になりました。皆様には、貴重なお時間を私達の演奏会にご来場頂き心より御礼を申し上げます。

私達 桜貝吹奏楽団は、1961年（昭和36年）頃に当時大田区立貝塚中学校へ赴任された、桜井敦子先生（現 指揮者の宍戸先生）が生徒達を大変熱心に指導されて、近隣の中学生や、その友人達が集まって出来た楽団です。当時は100名以上の団員数で、毎日何処かに集まっては練習やおしゃべりに興じておりましたが、3年間を過ぎるとそれぞれが違った道へ進み始め、10年以上の空白が出来てしまったのです。しかし、誰言うとも無く、又、楽器をやりたいと思う数名が、年に1度か2度練習に集まって、細々とやり始め、2年程前に、今は楽器をやっていない仲間達を呼んで楽しく演奏したいという事から、今回の演奏会に至りました。なにぶんにも、平均年齢が59歳という前期高齢者バンドの為、今日は団員のジュニア達に応援をお願いしました。私達の拙い演奏ですが、最後まで我慢してお聞きいただけたら幸いです。

桜貝吹奏楽団 団長 草薙 明

本日は、お忙しいところ、御来場下さいまして有り難う御座いました。

このバンドの原点となりました貝塚中学校では、新任講師ではありましたが、新設された吹奏楽部を任され、大変熱心に活動しました。その頃、貝塚の他に馬込中、蒲田中も掛け持ちしていたことから、3校の卒業生が中心となり桜貝吹奏楽団を結成し、演奏会や地域の行事、歳末助け合いなどを3年間行って来ました。

その後も時々は数人の人達と会っていましたが、私が定年退職して少しした頃、数人が声を掛け合って演奏会場を取り、練習を重ねて今日の日を迎える事ができました。40年位の時を超えて再び会っても、気持ちは10代20代のまま、ちょっと不思議でした。親子で舞台上に乗っている方々も居て、練習もなかなか微笑ましく、楽しいものでした。

なにぶんあれよあれよと言う間に始まった演奏会、お聞き苦しい処も多々あると思いますが、秋の午後のひと時をお楽しみ下さい。後、お手伝い下さった関係者の方々に、心から御礼申し上げます。

宍戸 敦子（旧姓 桜井）



プログラム
Program

マーチと共に (スーザとアルフォードの饗宴)

銃声

K. アルフォード

ナイルの守り

K. アルフォード

ボギー大佐

K. アルフォード

星条旗よ永遠なれ

J. P. スーザ

ソロとアンサンブル

桜貝の歌 (宍戸先生)

曲：八洲秀章 詞：土屋花情

トランペット (徳富 豊)
THE MAID OF THE MIST

H. L. クラーク

弦楽四重奏 (経堂クワルテット)
弦楽四重奏曲より 第1楽章

C. ドビュッシー

金管アンサンブル (徳富豊・金川(い)・宍戸彰・金川(春)・川島・深瀬)
トランペット・ヴォランタリー
ディズニー・メドレー

H. パーセル
編：YAMAMOTO

打楽器アンサンブル (草薙・関・城・徳富(美)・岡田)
Tom-Tom Foolery

A. アベル

みんなで歌いましょう

赤とんぼ

曲：山田耕筰 詞：三木露風

里の秋

曲：海沼実 詞：斎藤信夫

故郷

曲：岡野貞一 詞：高野辰之

千の風になって

曲：新井満 詞：不詳

みんなで楽しもう

愛の挨拶 (ヴァイオリン：金子)

E. エルガー

フーテナニー

H. L. ウォルターズ

マイウェイ

J. ルポォー&C. フランソワ

赤とんぼ

一、夕焼小焼のあかとんぼ

追われて見たのはいつの日か

二、山の畑の桑の実を

小籠につんだはまぼろしか

三、十五で姐ねえやは嫁にゆき

お里のたよりもたえはてた

四、夕やけ小やけの赤とんぼ

とまっているよ竿の先

里の秋

一、静かな 静かな 里の秋

お背戸せとに 木の実の落ちる夜よは

ああ 母かあさんと ただふたり

クリの実み 煮にてます いろいろばた

二、あかるい あかるい 星の空

なきなき夜がもの 渡る夜は

ああ 父とうさんの あのがお

クリの実 たべては 思い出す

三、さよなら さよなら やしの島

おふねにゆられて 帰られる

ああ 父さんよ ごぶじでと

こんやも 母さんと 祈ります

故郷

一、兎追いしかの山

小鮒釣りしかの川

夢は今もめぐりて

忘れがたき故郷

二、いかにいます父母

つつがなしや友垣

雨に風につけても

思ひ出づる 故郷

三、こころざしをはたして

いつの日にか帰らん

山はあおきふるさと

水は清きふるさと

「銃声」

1917年に出版され、1962年にアメリカで作られた映画「アラビアのロレンス」のテーマ曲としても用いられた曲です。リズムも堂々としていて、イギリスのマーチ王 アルフォードのベストとも言える曲の一つです。

「星条旗よ永遠なれ」

アメリカのマーチ王 スーザは、ナポリから帰国する船の上で、海風にはためく星条旗を見て構想を浮かばせ、1896年のクリスマスの日に、この曲を書き上げたと言われています。

「桜貝の歌」

昭和14年、まだ作曲家の卵だった八洲秀章には是非結構したいと切望していた恋人がいましたが、彼女は18才でこの世を去りました。傷心の八洲は下宿していた鎌倉由比ヶ浜海岸で桜貝を拾って、「わが恋の如く悲しや桜貝、かたひらのさみしくありて」の一首を詠み、親しくしていた土屋花情に示して、15年の夏にこの詞ができました。

「愛の挨拶」

原曲は1888年に作曲されたピアノ曲ですが、翌年にオーケストラの為に編曲された事によって、広く一般に知られるようになりました。まさにイギリス紳士の愛の挨拶を思わせる音楽になっています。

「フーテナニー」

ハロルド・ウォルターズはフーテナニーの中にフォークソングの様々なメロディーを使っています。最初の部分ではスローテンポでリズムックなブルース Frankie and Johnny、物思わしげな Lonesome Road、そして最後は John Henry、明るく速いテンポに急変し、クラリネットの Chicken Reel・トロンボーンの Row the Boat・ホルネットの Arkansas Traveler、の3つのグループにフィーチャーされ、楽しげな On My Way・Down By the Riversideへと続き、終結に導かれます。

「マイウェイ」

フランクシナトラの熱唱でおなじみの名曲ですが、原曲は「Comme D'habitude (いつもの様に)」というタイトルのシャンソンで、1967年に歌手のクロード・フランソワによって作られました。シナトラのレコードはミリオンセラーとなる大ヒットを記録し、スタンダードナンバーの仲間入りをしました。

団員
Member

Conductor

央戸敦子

Flute

白井建
吉田三知子
吉津健
野村稔
櫻井正樹

Clarinet

武田明子
布目博
村山敏

A.Saxophone

川島真美

Trumpet

梅津恒明
徳富豊
金川いずみ
安田遼太

Horn

央戸彰
渡邊博文

Trombone

金川春美
梅津由紀
佐々木満

Euphonium

川島茂

Tuba

金子哲理
深瀬秀和

Percussion

草薙明
関明
徳富美奈子

城章一
岡田透

Piano

鈴木啓代先生
大橋響子

経堂クワルテット

ヴァイオリン 金子哲理
金子直子
ヴィオラ 益田直美
チェロ 益田重明

司会

杉山京子

役員

団長 草薙明
副団長 岡田透
金川春美
会計 武田明子
岡田透
総務 吉田三知子

コンサートスタッフ

中馬淳
藤井仁志
八木橋剛
寺園遥香
永森窓奈

